

活用方法  
虎の巻

# スクールソーシャルワーカーを もっと効果的に！



公益社団法人 日本精神保健福祉士協会  
分野別プロジェクト「スクールソーシャルワーク」  
令和4年3月

# What is ソーシャルワーカー?

エンパワー

ウェルビーイング



エンパワー: その人の本来持っている力が引き出される状態  
ウェルビーイング: その人にとってより良い状態

ソーシャルワーカーの国家資格である社会福祉士や精神保健福祉士は「専門的知識及び技術をもって、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、福祉サービスを提供する者、その他の関係者との連絡及び調整、その他の援助を行うことを業とする者」です。

その中でも精神保健福祉士とは、メンタルヘルス(心の健康)に関する知識を有する専門職です。精神疾患や障害に関する知識をもって、子どもや家庭の抱える心の問題にもアプローチします。

身体的・精神的・社会的に良好な状態で一人ひとりにとっての幸せを目指す福祉の専門職です

## 情報収集・分析

一人ひとりの想いを聴き取り、大切にしながら、その方の環境背景にある課題を分析し、必要な支援サービスを調整します。

## 関係機関調整

その人にとって必要な支援やサービス、地域のカナなどを調整し、よりよい生活に向かって円滑に協働出来るよう調整します。

## 資源開発

それぞれの地域や社会のニーズに合わせて、必要な資源やサービスの開発、政策への提言を行い、より豊かな社会を目指します。

わたしたちは、一人ひとりが抱える問題を「個人」の責任にせず、その背景にある「環境」にある課題を分析し、家族システム、環境システム、社会システムなどに働きかけます。

福祉に関する専門知識を基盤に、一人ひとりがその人らしく、自分の力を発揮できる環境を一緒に考えます。



## <SSWerによる支援の例>

※スクールソーシャルワーカーをSSWerと示す。



Aさん、中学1年  
家庭環境

本人、母親(パート)、妹(小2)

本人の性格

真面目、おとなしい、やさしい

学校生活

入学当初からほぼ毎日遅刻しながら登校しています。2学期になって欠席も増加し、部活動も頻繁に休むようになりました。

相談経緯

担任と養護教諭は、Aさんの遅刻・欠席等が気になり、SSWerに相談してみることにしました。

SSWerによる支援の開始 \*ポイントを◎と示す。

○情報収集・分析(アセスメント)・プランニング

\*ケース会議実施

◎ SSWerの視点:人との環境との相互作用

本人や家族への支援検討

小学校との情報共有

○支援の実施

\*本人・家族への支援

◎ 本人主体:家庭訪問で、本人との面談

→不安軽減とエンパワメントを行い関係構築  
本人の思いを代弁し、環境調整

◎ 家族支援:家庭訪問で母親とも面談【母親がうつ病で精神科受診、家事・仕事の負担が大きい】

→母親への寄り添い及び家族支援と Aさんの学校生活についても一緒に考えました。

【関係調整】Aさんと母親と話す機会の設定及び調整

【機関調整】病院の精神保健福祉士との連携、小中連携  
子育て支援サービスとの連絡調整

\*学校への支援

◎ 関係調整:学校の中でのAさんへのキーパーソンづくり

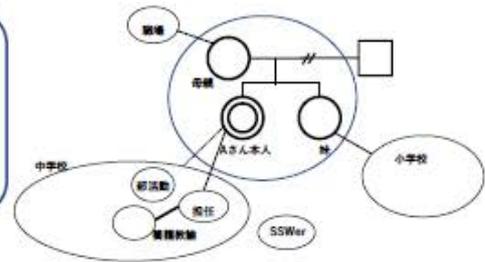
◎ グループワーク:学級へのグループワーク【Aさんと同級生との関係構築】

○結果

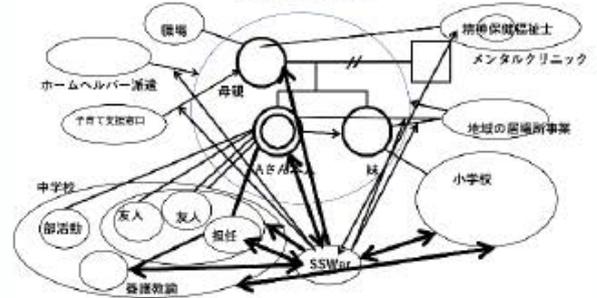
Aさんの遅刻・欠席は減り、友達と話す姿や部活動への参加もみられるようになりました。母子共にSSWerとの面談を定期的に行い、母子だけで抱え込まないように支援しています。また、Aさんの家庭のような状況が他にもいないか、学校の対応力向上のための校内研修を行いました(組織介入)。

ジェノグラム・エコマップで経過を見てみよう!

支援開始前



支援開始後



(凡例)

女性 ○ 男性 □ 性別不明 △ 本人は二重 ○ □

年齢を中に記入しても構わない ④ 38

死亡 ⊠ 結婚 □-○ 別居 □-○ 離婚 □-○

子ども □-○ 世帯状況(同居世帯) ※同居

関係者 ○ 例) 児童相談所

※関係性  
通常 ——— 希薄な関係 ——— 強い関係 ——— ストレス +++++  
\* 関係の強さを線の太さ、ストレスの強さを線の数で表す。

関係の方向 →

図から、支援前後で  
Aさん家庭への繋がりの強化・拡がり  
が分かりますね。



SSWerは、  
サービスがない場合は、  
資源開発も  
行います。



# 教育委員会所属 SSWer 本採用の流れとメリット（取り組み例紹介）

## 1 SSWer 本採用の流れ

教育委員会担当職員による子どもの不登校や家庭が抱える貧困等の課題解決方法の検討

SSWer 専門の大学教員への相談と人材の紹介依頼

試行的に社会福祉専門職（精神保健福祉士及び社会福祉士）としてソーシャルワークの現場経験がある人材を嘱託職員として採用

採用後 SSWer の活動を精査し、子どもと家庭支援において効果があると判断し本採用の取り組みへ

自治体で策定する総合計画や総合戦略等における子どもの教育に関する項目に SSWer の必要性を明記し本採用

## 2 所 属：教育委員会 学校教育課

SSWer 枠での採用で部署異動がないのが前提となっており公務員の専門職扱い

## 3 勤務形態：常勤で中学校への配置型

## 4 正規職員としてのメリット

### • 支援の継続性

専門職として配置型であることから、困難事例を含め子どもや家族への早期支援の介入から継続的な支援を行うことができます。

### • 他機関・多職種との連携

配置型であることから、常に学校に常駐していることを関係機関が把握しており、相互の関係が作りやすく情報共有や協働支援がスムーズです。

### • 専門性の発揮

スクールソーシャルワークは、子どもや家族、他機関との関係構築、校内の支援体制作りなどが重要です。正規職員であり部署異動がないことで、SSWer としてこれらの専門性をより発揮できる環境となっています。

## 5 配置型のメリット

学校に常勤しているため、子どもや保護者が気軽に SSWer を訪ね相談しやすい環境にあることから、問題を早期に把握することができます。また、学校教職員との情報交換や支援方法の検討をタイムリーに行うことができ、途切れのない継続的な支援に繋がっています。

※リーフレットは、下記ウェブサイト及び右記二次元バーコードからもダウンロードできます。  
<https://www.jamhsw.or.jp/ugoki/hokokusyo/20220331-ssw.html>

